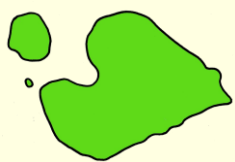


瀬戸内に浮かぶハートの島



いわい しま

祝島

観光ガイドマップ

山口県・上関町祝島

制作:祝島ネット21



祝島への交通アクセス

◎定期船 (お問合せ:上関航運 0820-62-0102)

<所要時間・料金>

祝島 - 柳井港(約70分) 大人1580円 小人790円
 祝島 - 室津(約40分) 大人920円 小人460円

※電車をご利用の場合は JR 柳井港駅より定期船乗り場まで徒歩3分
 お車をご利用の場合は 室津(無料駐車場あり)からの乗船が便利です



<時刻表>

祝島行				室津・柳井港行			
柳井港	—	9:30	15:45	祝島	6:45	12:30	17:05
室津	6:10	10:00	16:15	上関	7:20	13:05	17:40
上関	↓	10:05	16:20	室津	7:25	13:10	17:45
祝島	6:38	10:40	16:55	柳井港	7:55	13:40	—

◎万葉の碑

祝島は、古来行き交う船の航行安全を守る神霊の鎮まり給う島として、崇められてきた「神の島」であることは、都にも広く知られ、万葉集にも登場します。



家人は 帰り早来と祝島
 齋ひ待つらむ 旅行くわれを
 草枕 旅行く人を祝島
 幾代経るまで 齋ひ来にけむ

万葉の碑には、遣新羅使が詠んだと言われる、この二首が刻まれています。

◎石積みの練塀(ねりへい)

石と土を積み重ね、しっくい固めた祝島独特の塀は「練塀」と呼ばれ、江戸時代の後期より作られ始めたと言われています。

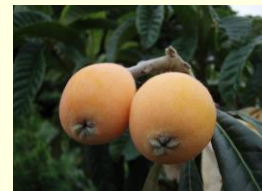


夏は涼しく、冬はあったかい・家と一体化したようなこの練塀は、吹きさらす強い海風や台風などから一軒の家だけでなく集落そのものを守ってくれます。また、防火の役割も果たされ、補修されながら今もその街並は守られ、受け継がれています。

祝島の特産品

◎山の幸

びわ、みかん、びわ茶
 さつまいも、こっこー
 寒干し大根



◎海の幸

タコの干物、ゆでだこ、サヨリの一夜干し
 タイ、ハマチ、アジ、ひじき、わかめ

◎お菓子など

よもぎまんじゅう
 おだまり飴
 石豆腐



祝島の情報

◎宿泊施設

みさき旅館 0820-66-2001
 はまや旅館 0820-66-2018
 民宿くにひろ 090-1332-4897

◎食堂・喫茶

お食事処 古泉 090-6906-3644
 喫茶軽食 わた家 090-7544-8169
 岩田珈琲店 090-1384-5299
 こいわい食堂 0820-66-2231

◎Webサイト

祝島ホームページ
<http://iwaishima.jp/>
 祝島観光案内所
<http://iwaishima.jp/kanko/>
 民宿くにひろ
<http://iwaishima.jp/minsyuku/>

◎チャーター船

岩本 0820-66-2040
 清水 0820-66-2206

◎遊漁

漁協 0820-66-2121

◎観光案内

祝島観光案内所 090-1332-4897

祝島の音声ガイドが聴けるよ！
 アクセスしてね！



しまにゃん

◎祝島(いわいしま)

瀬戸内海の西の端、山口県の南東に位置する祝島は、周囲およそ12km、ハートの形をした小さな島です。集落は島の一ヶ所に固まっています。約300世帯、450人が暮らしています。一年を通して温暖な気候で、山の段々畑では特産のビワやミカンが栽培されています。周囲は豊穡の海に囲まれ、タイの一本釣りは特に有名です。島独特の景観を形成している「石積みの練堀」や「平さんの棚田」、人なつこい島ネコが観光客に人気です。

祝島観光マップ

◎不老長寿の実 こっこー

その昔、秦の始皇帝から不老不死の妙薬を探す命を受け、この不老長寿の実を探しに来たと言われる「徐福伝説」。島に自生する「こっこー(シマサルナシ)」の実は親指ほどの大きさながら1粒食べると千年長生きすると言えられてきました。キウフルーツの原種と言われ、12月頃が食べ頃です。



◎氏本農園

持続可能な循環型農業に力を入れ、豚を飼育しています。雑草を食べて畑を耕してくれるという働き者の豚さんたちに、会いに行ってみましょう!!



◎神舞神事

今から1120年余り昔、仁和2年8月、山城国(現在の京都)の岩清水八幡宮よりご分霊を奉持して帰途の豊後(現在の大分)伊美郷の神官たちが嵐に遭った際、祝島の人が助け、手厚くもてなしたそうです。お礼に五穀の種を分け、農耕と神を祀ることを伝えられたことで島の生活が向上したことに感謝し、毎年8月、祝島から伊美へ「お種戻し」の参拝が行われています。4年に一度の「神舞」は、島に招かれた神官たちとの合同神事。海上での勇壮な入船・出船神事と古式豊かな33の神楽舞が奉納されます。



◎平さんの棚田

親子三代で、重機も使わず「てこ」で造りあげた日本最大級の美しい棚田。急勾配の土地を切り拓いて、広く平らな田んぼを造るため、高い石垣が築られました。「石積み」という手法で積み上げられた石垣は、数トンもある巨石から小石まで理想的な配列がなされています。石垣の最も高いところは9mもあり、そこからの眺めは絶景です。集落からは約4km、歩いて1時間ほどかかりますが、一見の価値があります。



◎行者堂

山頂近くに、小さな鳥居と小さなお堂があり、修験僧・役行者(えんのぎょうじゃ)の石像が祀られています。霊験あらたかなこの行者堂を、祝島の人たちは「行者様」と呼び、ここぞ!という時、お参りに行きます。集落から歩いて1時間ほどで、ずっと登り坂と山道です。

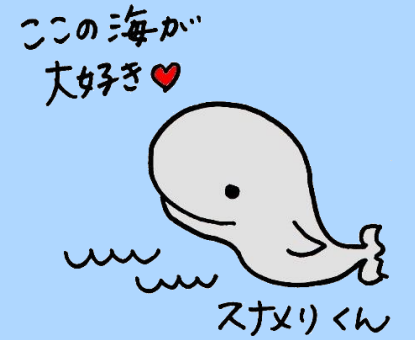


イラスト: 優子

◎山桜

その昔、春には、二百種類にもおよぶ山桜が、次々と咲き乱れ、島全体が桜色に染まる様は「海上吉野の千本桜」と呼ばれ、各地から御座船を仕立て花見に訪れていたそうです。近海では、この時期、子育てをするクジラが集まり潮を吹く様と、島を覆い尽くすほどの山桜が織りなす風景がそれはそれは見事だったそうです。優しい桜色が順々に咲き誇る山桜は、今もなお、私たちの目を楽しませてくれます。



集落マップへ

祝島ではタイの一本釣りが有名です

